令和４年２月１日

令和３年度　市川町小中学校 GIGA タブレット活用状況アンケート結果について

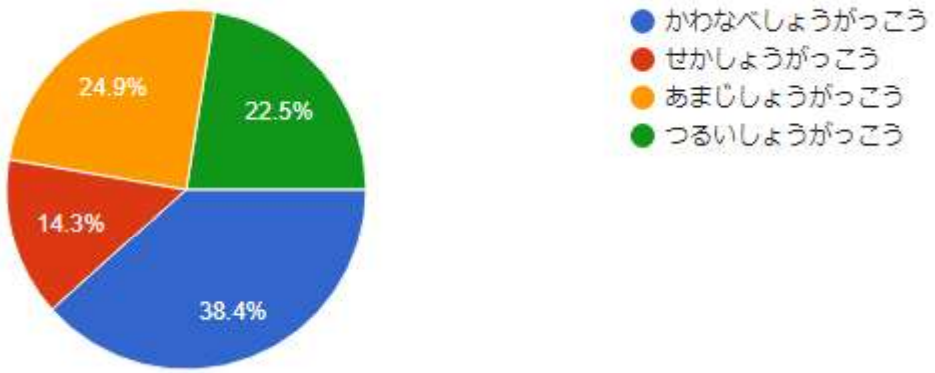
１　目　的

GIGA スクール構想における一人１台タブレット導入から１年になろうとしている。教育 ICT 推進状況を把握するための数値情報を収集し，今後の ICT 教育の取り組み指標とする。

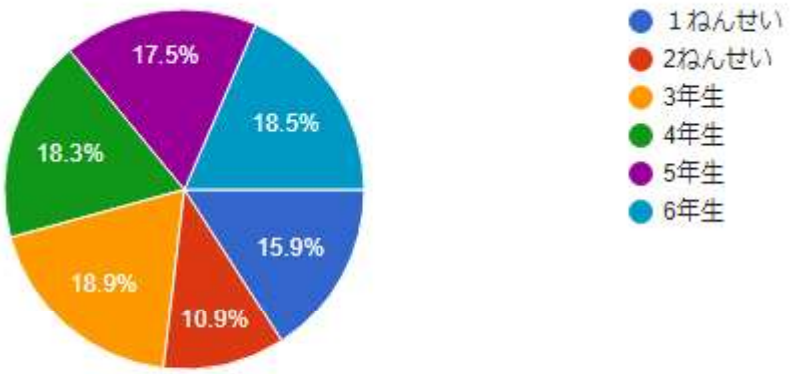
２　調査対象

（１）小学校

①　市川町立各小学校　１年生～6 年生　全児童　　503 名

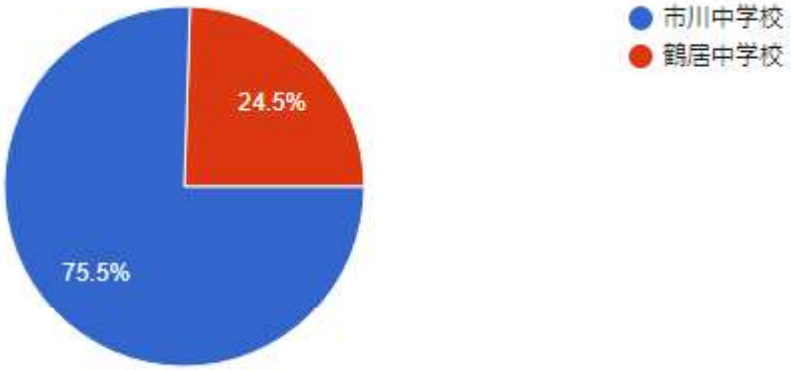


②　学年の割合

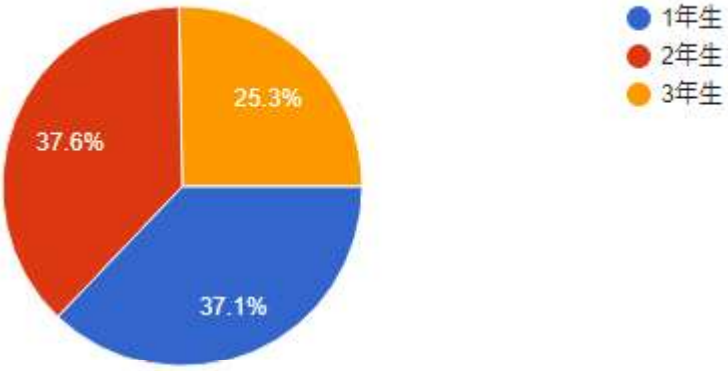


（２） 中学校

① 市川町立各中学校　１年生～３年生　全生徒　245 名



② 各学年の割合

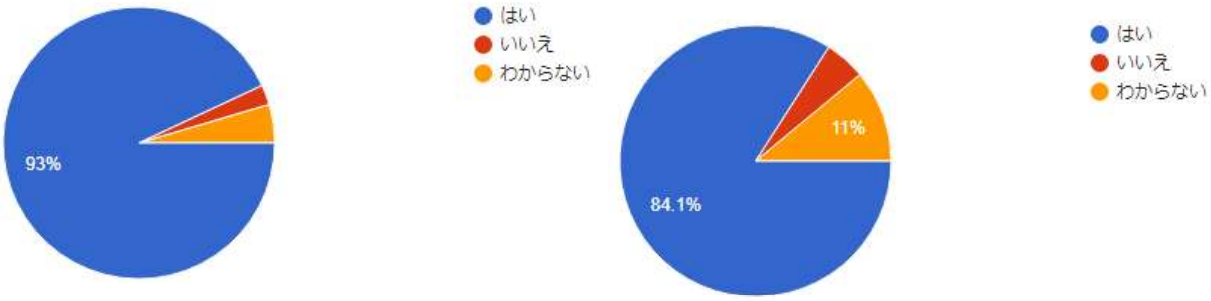


３　アンケート結果について

（１）タブレットを使った学習について

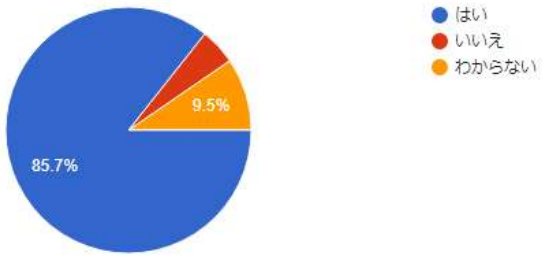
① 楽しいですか

小学校　　中学校

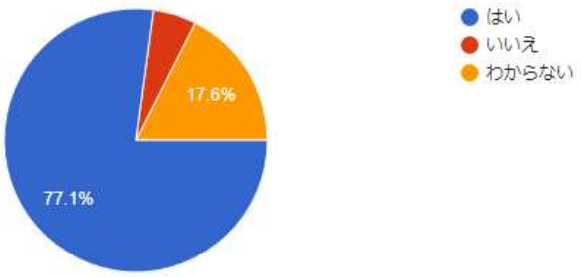


③ わかりやすいですか

小学校

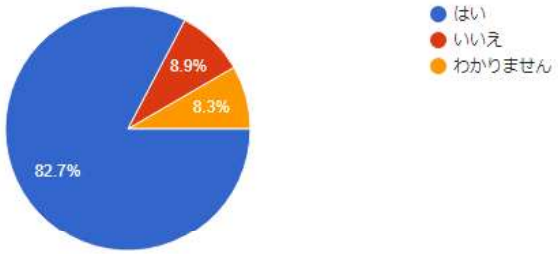


中学校

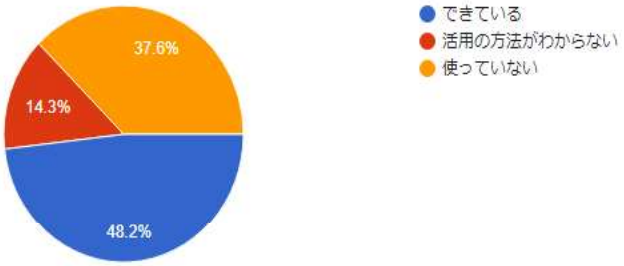


④ 持ちかえったタブレットを使って学習できていますか

小学校

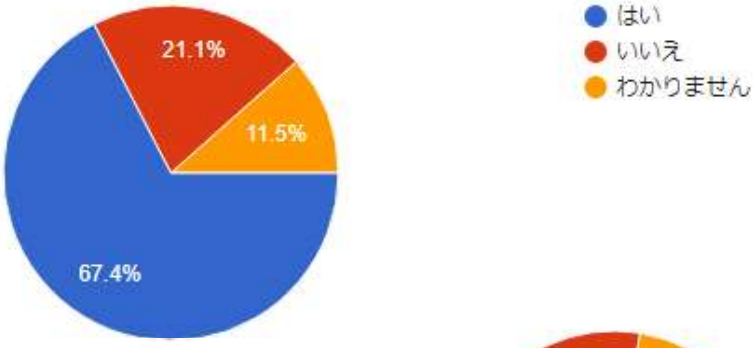


中学校

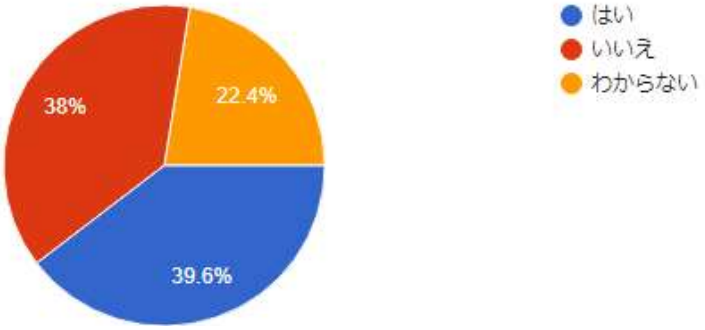


⑤ タブレットを持ちかえる日を増やしてほしいですか

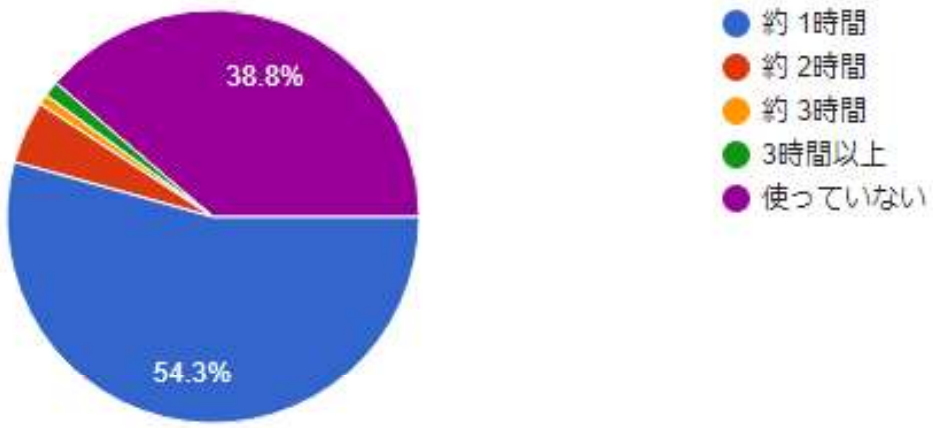
小学校



中学校



⑥ 持ちかえったタブレットを使う時間を教えてください（中学校結果）



4　考　察

（1）導入１年を経過した児童生徒の状況

新しい学習ツールとして小学生・中学生ともに関心を持って学習に利用できています。今までの限られた場所，制限された利用時間（コンピュータルームの利用）の枠が大きく取り除かれたことによる環境の変化を感じていることがわかります。

はじめのうちは、教師がタブレット活用の視点（どの授業場面、どの学習形態で活用するか）を明確にするが、次第に一人一台の環境が整備されるのであれば、学習ツールとして活用するかどうかは、児童生徒の判断にまかせ、学校の環境下の中で見守ることも求められます。また、タブレット活用に慣れるだけでは情報活用能力の育成につながっていくことが難しいことも考えられます。

文科省の情報活用能力調査の結果を踏まえ、情報活用能力を育てるようなカリキュラムと授業を行い、評価する必要があるといわれています。

（2）教員の状況

児童生徒の基礎的なICT操作能力はタブレット端末が整備された後、１年間で向上します。先生方は，タブレット端末が学校に導入されることには賛成であり学力向上に役立つと考えておられます。しかし，自分は「使わない・月に一度程度（ほぼ使わない）」という教員が４０%強はいるという統計結果があります。

一般に若い教員ほどICT機器操作に習熟しており授業にも積極的に用いると考えられがちですが、若い教員にとって、日々の「普通の授業」を成立させることが最優先の課題であり、タブレット端末はいわば「余計なもの」と意識している統計結果もあります。

ICT 機器を用いた学力向上に関して疑問を持つ教員や、タブレット使用に不安感を感じている教員が一定層いる中、備品としてタブレットを配布したからといって、有効な活用がされるかというと、現状ではなかなか難しい状況ではないでしょうか。児童生徒の意識と教師の意識の違いを埋めていくことが必要です。 そのためには、教員のタイプを意識した研修の推進，また、優れた実践を行う教員の個別育成、協働学習を意識したタブレット活用の実践報告や有効なコンテンツの紹介等の研修スタイルを取り入れていくことが大切でしょう。